

令和4年度 第3回 校長「語らいサロン」

中学校への進学について

日時：令和4年9月17日(土) 9:00~10:00

場所：集会室

参加者数 15名

川中子 それでは皆さん、おはようございます。朝早くからありがとうございます。今日はですね、中学校の話題でお話したいなと思ってます。いつもでしたら、お集まりいただいた方に一言ずつ自己紹介を兼ねてお話をさせていただいてるんですが、今日はゲストコメンテーターの駒田校長先生もお呼びしております、時間の関係で早速始めたいと思います。えー、「来る」と書いてあった方が17名で、「関心がある」という方が15名くらいでしたので、おそらく20名くらいの方がいらっしゃるかなと思っているんですが、ここからスタートしていきたいと思

います。今日はですね、今、お手元にある次第にもあると思うんですが、初めに中学生をここに呼ぼうと思ったんですが、本当は、中学生に来てもらって、実際に話してもらおうかと思ったんですが、よく考えたら中学生も結構忙しくてですね。土曜日は学校もあるかな、ということで、夏休み中にちょっと来てもらって、私がインタビューしたのを見ていただくというところから始めようかなと。それをまず見てください。中学生。1年生。なったばかりですから、3ヶ月、4ヶ月しかたっていない子たちが、中学校と小学校はどんな違いがあるんだろうというのを話してくれていますので、よろしくお願いします。

あ！ごめんなさい！今日のゲストコメンテーターの吾郷第二中学校の駒田校長先生です。校長先生、どうぞ、よろしくお願いいたします！

駒田K 駒田です。よろしくお願いします。

川中子 ビデオを見ていただいた後で、駒田校長先生にお話ししていただきたいと思っています。では、中学生のビデオを見てみてください。

《動画視聴》中学生に聞いてみた「中学校生活について」



* 動画は、「保護者専用ページ」でご覧いただくことができます。

《主な中学生の声》

Q 小学校と中学校の違いを一言で言うと？

A 部活があるかないか。1日の日程。先輩との関わり。先輩との上下関係。学校の設備。通学。先生の厳しさ。通学の時間と方法。勉強の難しさ。

Q 学習面での違いは？

A 授業の進度が速い。あまり変わらない。

Q 「私の学校が力を入れているところ」は？

A テストの回数が少ない。テストが終わった後の振り返り方が違う。英語に力を入れている。英検の級で英語のクラスが分かれる。平日、朝6時から英語のラジオを聞くことになっている。授業も英語しか話してはいけないことになっている。

Q 部活動について思うことは？ 中学校生活における部活動の閉める割合は？

A 墨田区立中学校の生徒：多い 私立・都立中学校の生徒：そうでもない

Q 入試について

A 準備もそうだが、入試当日がけっこうきついで、メンタルを強くもつことが大事。

私立：入試科目は4科(国語・社会・理科・算数)。2科(国語・算数)。

都立：入試は適性検査1(作文)、2(社会・理科)、3(理系)。

準備は、全員塾に通っていた。4年生から、5年生から、6年生になってから。

Q 小学生の後輩たちへのメッセージ

A 中学校に入ると忙しくなるので、今のうちに遊んでおいた方がいい。小学校の勉強はちゃんとやっておいたほうがいい。宿題がいっぱい出るの、宿題になれた方がいい。遠くの学校に通う人は、朝早く起きる練習をやっておいた方がいい。受験は昼間なので、昼間に勉強する練習を。小学校で習ったことは分かっている前提で授業が進むので、勉強を頑張っておいてください。

川中子 はい。ありがとうございました。ちょっと長くなりましたが、子どもたちの生の声を聞くことができ、私もとても楽しかったのですが、えー、いかがでしたか？小学校卒業してから4ヶ月？5ヶ月？くらいですが、とっても立派ですよ、13歳には思えないくらい！びっくりです。やっぱり、中学校に上がるって言うのは、子どもたちにとって大きな「儀式」なんですね。小学校を卒業して、中学生になる。大人になるための「儀式」を通過していく。ただ、こんな子たちでも、中学校に入ってくると「あ！かわいいね！」と言われているんです。「わあ、かわいい子が入ってきたね！」ってみんな言われているんです。中学校は3年生くらいになると、おじさん・おばさんみたいな子も出てきます。(笑) 背も大きくなって。私も、最後教えたのは中学生でしたので、最後の方なんかは1年生が入ってくると、かわいくてかわいくてしょうがない、って感じていたんですよ。で、小学校に来てみると、かわいさが全然別物ですね。本当に立派な中学生になっていてくれてよかったなと思います。これからきっとそれぞれの学校で活

躍してくれると思います。

さあ、それでは、今日は中学生のコメントとあわせて、中学校の先生、近くの中学校の校長先生に来ていただくことができました。えー、寺中の校長先生にも声をかけたんですが、今日はお休みだそうで。駒田先生の学校は今日は公開をやっていたらいいなと思うので、このためにこちらに来ていただきました。本当にありがとうございます。ぜひ、駒田先生からは中学校の魅力についてお話をいただけたらと思います。それでは、駒田先生、よろしくお願いします！



変わることを恐れなくて！

駒田K 吾郷二中の駒田です。このお話をいただいたときに、下心というか「吾二にも来てほしいな」と思いました。(笑) けれども、それは、今日は出さないお約束でお話をさせていただきます！(笑) 私は中学校ばかり経験してきました。教員時代が、5校。自分が実際副校長は1校。そして、今、校長で吾郷二中にいます。その経験を踏まえて、私よりも若い世代のお父様・お母様方、そしてさらに若い、今の中学生。さらに私の実際の中学時代を振り返り、今の中学生、中学校について話せたらなと思います。当然、変化があります。不易流行、変わらないところもありますし、変化もあります。そんなところなどもお話しさせていただければなと思っています。

まず、今の動画ですが、素晴らしいですね。本校のKさんも、頑張っているんですけど、他の生徒さんたちも、今川中子校長先生からお話がかったように、立派だなと思います。みなさん「大変」と言いながら、「大変」という言葉の裏に、何か「うれしさ」だったり、こんなに変わったんだよっていう誇らしげな「アピール」があったり。そういうものを感じます。これは、今も昔も変わらないかな。私は、制服を着るってということが、とても自分の中では大きかったです。英語が始まること以上に、毎日制服を着て登校というのが大人になった感じがしたものです。「中1ギャップ」という言葉がありますね。「中1ギャップ」、ギャップによって、そこで躓いてしまうと、例えば不登校や登校しぶりっていうようなことになる例も少なくはないです。中1ギャップという言葉は、どちらかという悪い面が出てきたときに語られがちなんですけど、私はよい面もとても多いと思っています。実際にはほとんどのお子さんはギャップがあることで、成長しています。自分の世界に新しい仲間が入ってきて新しい環境になる。起きる時間も変わる。制服も違う、先生もめまぐるしく1時間目から変わる。担任の先生も朝会って、給食の時にやっと会えた、などなど。子どもにとってはこのように生活が変わるっていうことは、よいことと捉えたいです。決して恐れなくてほしいなと思いますし、それを楽しむ気持ちをもってください。ところで今日は、6年生のお母さんが多いですか？

川中子 どうでしょう？6年生の保護者の方は？あ、そうでもないですね。

駒田K 分かりました。低学年/中学年の方もいらっしゃいますね。そんなに小さいときからじゃなくていいと思うんですけど、5年生、6年生くらいになったら、中一ギャップを乗り越えるレジリエンスっていうか、しなやかさっていうか、あるいは、ストレス耐性。そういったところをもってほしいです。「大きく変わる」って書いて「大変」って言葉になりますが、嫌なことじゃないんだという価値観をお子様にお話ししていただいているといいんじゃないかなと思います。先程登場したお子さんたちの言葉の中にも、「忙しいけれど楽しい」という言葉がありました。中学生って確かに忙しいですね。例えば、地域でお祭りをやります。ちょっと担ぎ手がいなくていいときに、「中学生はなかなかかきたくないですよ」って地域の方に言われますが、「あ、ごめんなさい！今ちょうど部活の試合の時期なので、部活の練習を優先しているんだと思います。」と答えることがあります。忙しいのは事実です。小学校と違い担任の先生から教わる。専科の先生はいらっしゃるけれど。そういったことも、「変わる」っていうことを楽しめるような、何か、メンタルというか、受け入れる気持ち、「楽しみだね！」っていう気持ちでやってくれたらいいと思います。例えば、ディズニーランドなどに行くと、この先何があるって分かっていなくて、ドキドキして、楽しい！と思うんですけど、全部分かっていて全部慣れていたら、楽しさにつながらないかなと思います。つまり楽しさにつながるような過ごし方っていうのを小学校の高学年くらいになったら意識してほしいです。「大変って大きく変わるって書くんだよね。」って。どんなふうに変わるのか一緒に考え、変わるっていろいろあるけど、成長するって変わるってことだよ、などと話しかけてみてください。言葉から導入してもいいと思いますし、何かご家族でちょっと出かけたときなどに、ちょっと意識の中に入れていただけたらいいかなと思います。

「出口」を意識した学習

その他、勉強のことについて、少しお話しさせていただくと、やっぱりちょっと話に出ていたように、テストのやり方が大きく変わります。ほとんどの中学校が定期考査といって、年に4回。3学期制のところだと年に5回。墨田は前後期制なので4回あります。区内全部がそういうスタイルを取っています。テストの範囲っていうのが、そこまでやった授業の範囲プラスα、入学したばかりだったら、小学校の6年生の時の復習も範囲の中に入ります。墨田の場合は、すみだ教育研究所の方から、小学校から中学校に上がる際の宿題のような冊子があるんですね。それに基づいたものとかを出します。定期考査でいろいろな経験を失敗してもいいと思っています。1年生によくあるのは、例えば、解答用紙と問題用紙が別で、解答用紙がずれていた、気がついたときには、もうチャイムが鳴っ

てしまうとか、そういう失敗って見られます。定期考査で失敗して、どこで失敗してほしくないかという、最後の、「出口」です。ここが一番、小学校と中学校と違うところ。先ほど、半分の生徒さんは入試を経験しましたって言ってましたけれど、中学校を卒業するときにはほとんどの生徒が入試を経験して次のステップに行きます。その「出口」のところを、私たちは考えます。1年生の担任とか、学年主任とかになると、1学年のことだけじゃなくて、(これはどこの学校でも、私だけじゃなく、他の先生方もそうですけれど、) どんな卒業式にしようかな、どんな卒業のさせ方をしたいかなと考えます。これは、学年全体の目標でもあります。要は一人一人の生徒がどんな夢とか目標に出会って、そしてそれを実現するかっていうことが大切です…。

「目標をもつ」という強み

今「出会って」という言葉を使ったんですけど、ちょっとここからまた話が変わります。さっきの楽しさを感じるだとか、目標をもつと言うときに、好きなものがあるというのはすごく強みです。メンタル的にも強みです。A、B二人の生徒の例を出します。Aさんは入学時に、「これが好き！」っていうのがはっきりしています。Bさんは、興味が広範囲で、友達は多いし、スポーツもいろいろなスポーツをしたがる。音楽もやりたがるし、何か演劇にも興味ある。ボランティアにも興味あるというように広いですね。どちらがよいとか悪いってということではないのですが、入学時に既に目標がある、出会っている、というのは強いなあと感じます。もちろん入学時に出会ってなければ、出会えるように仕向けられればよいわけです。様々なことに出会い、「好き」に出会えると毎日の生活が生き生きするということもあります。目標がある子とない子とでは、目標がある方が強いですよっていう話は、塾の先生なんかもしますよね。でも、大人がこの子に目標、もて！って言うても、なかなかもてるものではありません。何に興味がある？と言っても、なかなか難しいと思うんです。じゃあ、どうしたらいいか。それぞれのお子さんによって違う話なんですけれど、やはり、本を読むことです。まあ、本(活字)がどうしても苦手というお子さんだったら、映像でもいいと思います。見せてあげてください。他にも出かけるとか、映画を見るとき…。友達同士の会話だけでは広がらないと思いますので。子どもの世界をぐんぐん広げるための策を大人がもっているっていうのは大事だと思います。いろいろありますが、やはり一番は、読書を勧めたいと思います。これは生涯役に立ちます。電子書籍でもいいと思います。でも、紙の本で、しっかり本を読むっていう習慣がついていると、世界が広がると思います。活字苦手なお子さんっていらっしゃいますよね。長いのは嫌だ、とか、字が小さいと嫌とか。図鑑を読めばいいと思っています。図鑑は見るものではなくて、図鑑は読むものだと言って、しっかり読んでごらんと声をかけてください。それもおすすめです。これが目標を見つける、目標に出会う、自分を知る方法です。こういうことをやっていくと、目標が見つかって、中学校に入るときに、漠然とでも、ああこんなことを頑張ってみようかな？こんなことをやってみようかなと思えると思います。

先程の卒業生のうち墨田組は部活動が(中学校生活に占める割合が)大きいって言ってましたけれど、面白いですね。一つは、通学とかが時間が少ないので、地元っていうのは。そういったところで、部活に充分時間を割くことができるのかなと思いました。

墨田区内、私は、墨田区に24年勤務しているんですけど、本当にいい学校がたくさんあります。区立中学校10校あります。都立両国を入れると11校ですが。あと、私立も2校ございまして、区立中学校頑張っておりますので、ぜひよろしく願います。はい、ではこのへんで終わります。

川中子 どうもありがとうございます！(拍手)

それじゃ、ぜひ、今日は駒田先生もいらっやっていますし、私のもと中学校の教員ですので、中学校のことについて、このあと皆様から聞いてみたいことがあったらお伺いしたいと思うんですけど。まず、最初にですね、駒田先生。小学校卒業した後、区立の、地元の中学校に行こうか、それとも別の都立とか私立を受験しようかって迷ってらっしゃるご家庭が、結構多いんですね。で、先生から見てですね、やっぱり先生は区立の校長先生ですので、区立の学校の魅力とか良さっていうのは、アピールするとしたらどういふところでしょうか？

地元の公立中学校のよいところは？

駒田K はい。そうですね。「近い」ということです。「近い」って、何か理由として挙げるには「ん？」と疑問に思うかも知れませんが、かなりのお子さんにとって通学は負担なんです。私は副校長の時、区内なのに一時間かけて、通ってきている生徒を見ていました。大変です。地元の強さは、やっぱり近い！ということ。そして、地域の目があること。地域の方が見守ってくれて、地域の学校という安心感がある。それから困った時に、本当に小さい頃からの自分を知っている友人がいるということ。一人一人のお子さんの特性を見極めて決めるのがよいと思います。今日、動画に出ていた生徒のよい点は、受験勉強を4年、5年生、6年生からなど自分から取り組んでいる様子です。やらされている感じっていうのがなかったですね。何か「嫌だったんだけど、4年生からやらされてました」という感じではなくて、自分からのメンタルもしっかりもってやっていたんだなと思いました。逆にその辺のハードルが区立にはないってところでしょうか。

川中子 ありがとうございます。そうですね、やっぱり、地元であるってこと。いずれ子どもたちはここを離れていきます。いずれ、それが12歳なのか、15歳なのか、18歳なのか。その子その子にあわせたタイミングで言うのがあるのかなって。もしかしたら、すぐ近くの大学に行って、ここにずっと住んでいる人もいるかもしれませんが、いずれ、自分の生まれ育った地域を離れていくんですね。それまでの間に、どういう人間関係をそこで作っていくのかって考えてみると、小学校までの12年。中学校までいくと15年。それでできる人間関係って言うのは、少しずつ広がっていくって考えていくと、いろんな考え方があかなって思えます。さっきあの、学校によって勉強の教え方が違うって話が出ていましたけど、そういうのを先取りして中学校からしっかり勉強していくんだという目標をもっているお子さんもいますし、そういうことはまだよく分からなくて、自分の良さもまだはっきり見つかっていないんだけど、それを地元の仲間と共に探していくんだという、中学校3年間っていうのはとってもすごいことですよ。三吾小から卒業したこと、吾二だと八広小から卒業したこと、まあ、八広小から卒業した子の多いんですけど。他のところから来ている子もいますね。寺中なんかは、三寺、一寺、三吾が中心で来ていて、それ以外からも来ている。まあ、地元と言っても、少しずつは広がっていくかなってことですね。というよ



うな違いがあります。もちろん、私立なんかにはその学校の良さがありますから、それはそれで素晴らしいことで、それはそれぞれがお調べになればいいかなと思います。公立の学校はそういう利点もあるかな。

駒田K 追加です。今年、他区から教員が転入してきたんですが、皆さん、一緒に、墨田区のICTが進んでいると言います。23区のいろいろなところから来て、みんな一緒に。私なんかは、もともと墨田にいますのでこの状況が当たり前のように思うんですが、どこも一人1台タブレットを使っていますが、やはり進んでいると言います。そこは、教育委員会に感謝しているところ。そういうところも見ていただけると嬉しいです。別に、私立だけが進んでいるという訳ではありません。

川中子 本校からも転出していく先生がいますけれど、別の区に行った先生方がみんな本当に困ってしまっている、今まで便利に使ってきたことができなくなってしまって、と嘆いていますね。墨田はすごかった、と。それは確かに言っていますね。それでは、保護者の皆様から何かいただけたら。感想でもいいですし、何かあれば。自己紹介も兼ねて、言っていただければ。はい、どうぞ。

中学校の校則について

Aさん うち、旦那がガーナ人で、ハーフなんですけれど。それで、髪型がツーブロックなんです。ネットとか見ると中学校入るとツーブロック禁止とか、最近ちょっと気になって。去年、中学校の校則が改正されたというのがホームページに載っていて、だけど未だにツーブロックは禁止。っていうのは書いてあるんですよ。で、今、ネットで検索すると、ここまでのツーブロックはいいけどここはダメ、みたいな。じゃあ、何だっただいいんだろうって。で、うちの子の髪型の何がダメなのかと、今すごい悩んじゃって。あの、学校によって違うとか、見る先生によって違うとかあるんですけど、実際どうなんでしょうか？

駒田K はい。えー、答え難い問題ですね。今言える範囲でお答えします。先程卒業時の出口の話をしたと思います。卒業の時のことを考えると、生徒自身に、ある程度TPOを考えた服装や髪型や、話し方などを、身に付けさせたいって思います。そうなるとうちも一定の基準が指導する側としてほしくなります。職場体験などもそうですが、何でもいよいよ、という状況ではない場面が中学校生活の中にはたくさんあります。「ツーブロック」も幅の広い言葉なので一概に言えませんが、例えば、初対面の方に、不快感や違和感を、感じさせたり、中学生という発達段階だと、みんなで授業をしている時に、集中を欠くことになったりすることはあります。これも発達段階によるものですが中学生ってどうしても、お年頃なので、下着の問題もあります。何色でも問題ないかもしれませんが、例えば、前に座っている女子生徒の下着のラインが見えたりするだけで、勉強に集中できないという生徒がいるのが中学校です。大事なことは、なぜその校則が必要なのかということを生徒自身が考えることだと思います。現状、ご遠慮くださいっていう状況はあります。しかし仮にツーブロックで登校した生徒さんがいたとしても、人権に配慮して話をしっかり聞いて、対応していきます。いきなり、「だからダメ」とか、人格否定するとかそういったことはないです。それはどこの学校もそうです。そういったところは安心してください。先程も言いましたように、こういうことを、子どもたち自身が考えることが、すごく勉強になりますので、子ども主体で考えさせたいなって思っています。吾二は、女の子の髪を結わく時に、あまり高いところでは、結ばないという校則があったんですが、生徒会中心に話し合っ、耳より上はだめとか書かなくてもよいじゃないか、そういうのはいらなくなってことになりました。だからといって、その校則がなくなったからといって、変な髪型にする子はいないです。これは不要な校則だということ、子どもたちが判断した好事例です。

川中子 はい。ぜひ、中学校で(個別に)ご相談なさってください。本当に、もう、個別に対応していくしかないかなって。今、校則の問題は、非常に大きな問題になっていて、文科省がですね、各教育委員会に見直すようになって！文科省が言うという、異常事態ですね。文部科学省っていうのは、そんな細かいことを言う機関じゃないのに、学校の校則をみなおしなさい、なんてバカなことを言い出して。文科省はそんな細かいこと言うんじゃないで、広く見ていてくれないと困るんですけど。ただ、今、人権っていうお話しも出てきましたけれど、人権感覚っていうのは今少しずつですが進化してきています。人の見かけですとか、性的指向ですとか。中学校の制服なんか、女の子がズボンをはいてもいいなんていう風に、本当に劇的に変わってきているところです。とても大事な視点だと思えます。最後に駒田先生がおっしゃったように、子どもが考えていくっていうのが大事。私は今本当にそこが大事だと思っています。なぜいいの、なぜ悪いの、なぜルールが必要なの、考えていって、そして自分で守っていくようになっていく。えー、「自ら学び、考え、行動する人」にならないといけないなと、私も思っています。

他、いかがでしょうか？ もうあんまり時間がないんですけど。Bさん、いかがですか？ 実は、今回の企画はBさんのご意見で取り上げたんですが。

Bさん あっ、私だったんですか？ 6年と1年に娘がいるんですけど、6年の子が都立の受験を考えています。私立には、遠いとか、通勤時間と同じくらいになってしまうので、もし残念な結果になっても、区立にいい学校があるので。先日寺中に見学に行ったりとか、いろいろ情報を聞いたりしているんですけど。受験に失敗してしまっても、そこからまたスタートできるかなって。吾二中は、学区外だったので検討しなかったんですけど、話を聞いてよかったです。

川中子 そうですね。区内10校あるんですけど、やっぱり同じ区立でも、その学校によってやっぱりちょっとずつ違って。特色があります。この学校のいいところ



はこれ、この学校のはこれっていうのはあります。ぜひ、いろんな資料もありますので、参考にさせていただけたらなと。

進学した学校がベストな進学先

駒田K ちょっといいですか。こちらの方のように、受験を考えていらっしゃる方も多いと思うんです。それで、合格して希望のところに進学していただくのが一番いいのですけれど、必ず、というか、受け入れる側の学校からすると、落ちて入学してくる子っているんですね。その際に気持ちが整っていないと、マイナスのメンタルの状況を作り出してしてしまうことがあります。「あーあ、仕方がない、区立か」というような思いが拭えていないのでしょう。そんな時はぜひ、「進学が決まったところが、あなたの第一希望なんだよ、あなたにとってベストな進学先なんだよ」というように、送り出していきたいかと思います。そこでもし、まだ、気持ちがすっきりしてませんっていうことがあるんだとしたら、それはぜひ中学校の教員に伝えていただきたいと思います。私たちは「いいスタートを切らせたいな」と思っていますので。ある生徒さんが、都立の中高一貫を受けたんですが、落ちたんですよ。それで親御さんが大丈夫かなと気になっていたんですけど、ケロっとしてたんで助かったんだそうです。「友達と一緒にだから、逆によかった。」って。このように子どもさんが何か、別の価値を見いだすことができるんですよ。こういうこともあります。

川中子 本当にそうですね。

それでは、いろんなこと個別に聞いてみたいこともあるかも知れませんが、実は駒田先生は学校に戻らなければいけないっていうことがありまして、今日はそれがちょっと気になっているんですが。今日はまた、たくさんの方にお集まりいただきよかったなって思います。小学校なんですけど、中学校のことを考えるっていうのは、あの、先を見るって言うのは、とても大事なことです。子どもたちも、自分で自分の道を切り開いてほしいと思いますので。そして区立にはとってもいい学校がいっぱいありますので、今日は私も強くお勧めして。もちろん、都立、私立もいいんですけど。区立にもいっぱいいい学校がありますので、そういうのを知ってもらいたいと思い、今日は駒田先生にも来ていただけて、本当に良かったです。駒田先生、本当にありがとうございました。(拍手)

では、これにて、本日の語りサロンを終了いたします。

今度は、10月の15日の公開日は、キャリア教育特別授業というのをやりますので、サロンはお休みしようかなと思っています。えー、キャリアの講師募集ですが、実はまだ4人しか集まっておりません。あと5、6人必要ですので、こちらにいらっしゃる方、またはお父さんたちにぜひお願いできればと思っています。よろしくをお願いします！